

2016年（平成28年） 7月8日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

6/23～6/29のNYMEX・WTIは、英国のEU離脱をめぐり、6/23の50.11ドルから6/27の46.33ドルまで下落、6/29には49.88に反すという変動の大きい一週間となった。

6月30日は、カナダ、ナイジェリアからの原油生産が回復しつつあるとの報告に加え、連休前かつ上期末の利益確定売りもあり、3日振りに反落した。8月限の終値は、前日比1.55ドル安の48.33ドルとなった。

週末7月1日は、対ユーロでのドル安による原油の割安感や連休前のポジション調整による買いで反発したが、米国内の掘削リグ稼働数の増加(11基)による供給増加観測が上げ幅を抑えた。8月限は前日比0.66ドル高の48.99ドルで終了した。

米独立記念日の連休明け5日は、世界経済の先行き不透明感を背景とする需給緩和懸念、6月のOPEC産油量が1997年以来の高水準を記録したとの報道、WTIの受け渡し点であるクッシングの在庫増加の報告等により、大幅に反落した。8月限の終値は、前週末比2.39ドル安の46.60ドルとなった。

6日は、米国の堅調な経済指標・株価上昇を背景に、米国内の原油在庫減少予想や対ユーロでのドル安等を材料として反発した。8月限の終値は、前日比0.83ドル高の47.43ドルだった。

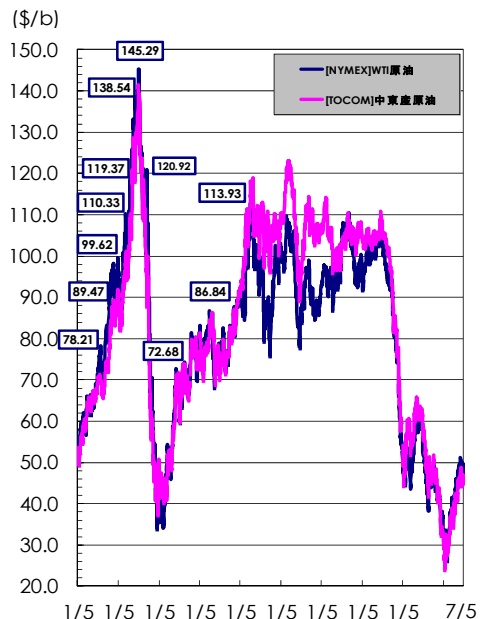
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(8月渡し)は、前週44ドル半ば～46ドル前半の範囲で推移した。30日は46.90ドル、1日は45.30ドル、4日は46.40ドル、5日は45.30ドル、6日は43.90ドルと、軟化気味で推移した。

為替は、前週は100～105円の範囲で大きく変動した。30日は102.91円、1日は102.98円、4日は102.56円、5日は102.39円、6日は101.10円と、引き続き、英国のEU離脱決定に伴う世界経済の先行き懸念で、安全資産とされる円は、円高気味で推移した。

主要元売会社の7月第2週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、概ね1円の値下げだった。原油は若干の値下がり、為替は円高で、原油コストは小幅な値下がりだった。

そのような中で、7月4日時点の小売価格は、ガソリンが0.2円値下がりの123.8円、軽油は0.1円値下がりの103.5円、灯油は横ばいの64.2円だった。ガソリンは17週振りの値下がり、軽油は2週連続の値下がり、灯油は2週連続の横ばいだった。この週の原油コストは小幅な値下がり、元売りの卸価格は全社とも据え置いた。

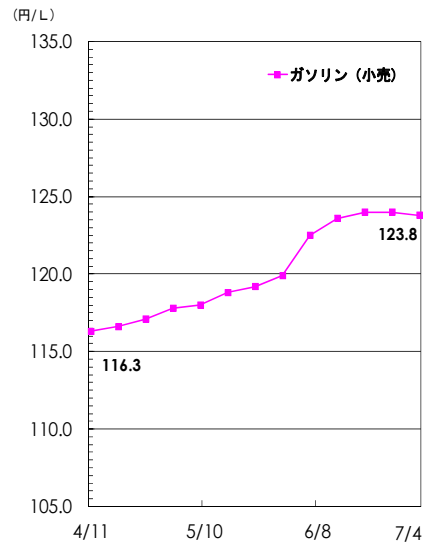
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/26 ~ 7/2	3,401 ▲ 26	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	80.1 ▲ 0.7	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	7/2	15,243 ▲ 239	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/ bbl)	7/4	46.87 ▲ 1.68	▼ -11.4
	WTI原油 (NYMEX) (\$/ bbl)	7/5	46.60 ▲ 0.27	▼ -5.9
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	6月上旬	43.94 ▲ 2.93	▼ -20.16
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	30,309 ▲ 2,303	▼ -19,266
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.66 ▼ -1.10	▲ 13.29
	外国為替TTSレート (¥/\$)	7/4	103.56 ▼ -0.38	▲ 19.93



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/26 ~ 7/2	946 ▲ 39	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,052 ▲ 86	▲ -	
	輸出	"	34 ▲ 34	▲ -	
	在庫	7/2	1,694 ▼ -139	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/28 ~ 7/4	43.1 ▼ -0.6	▼ -20.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/28 ~ 7/4	42.6 ▼ -1.1	▼ -20.2
		(TOCOM/中部)	7/4	42.5 ▲ 0.5	▼ -18.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/4	123.8 ▼ -0.2	▼ -21.4	

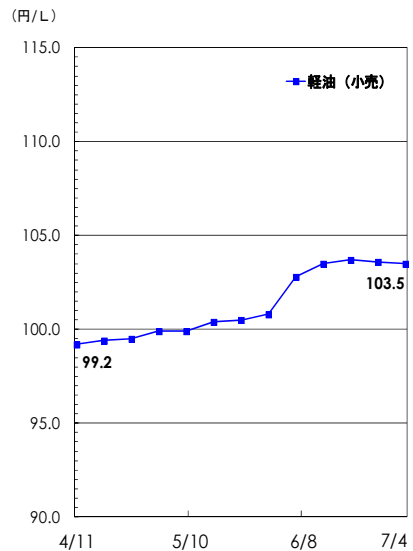
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

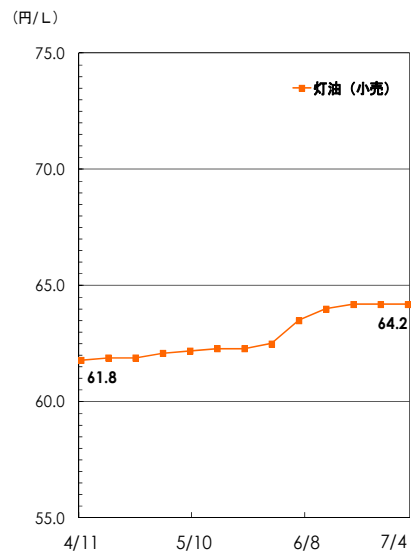
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/26 ~ 7/2	848 ▲ 52	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	613 ▼ -16	▲ -	
	輸出	"	130 ▼ -45	▼ -	
	在庫	7/2	1,543 ▲ 105	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/28 ~ 7/4	41.5 ▲ 0.0	▼ -17.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/28 ~ 7/4	40.0 ▼ -0.2	▼ -17.7
		(TOCOM/中部)	7/4	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/4	103.5 ▼ -0.1	▼ -19.9	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/26 ~ 7/2	183 ▲ 26	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	94 ▲ 27	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	7/2	1,911 ▲ 89	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/28 ~ 7/4	40.1 ▼ -0.4	▼ -18.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/28 ~ 7/4	39.7 ▼ -0.2	▼ -18.2
		(TOCOM/中部)	7/4	39.7 ▲ 0.6	▼ -17.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/4	64.2 ➡ 0.0	▼ -21.6	



■ 関連情報

1 海外/原油

6日のNYMEX市場のWTI原油は、米国の6月非製造業景況指数が市場予想を大幅に上待ったこと、米国株価の回復等により、投資家心理の改善で原油も買われた。加えて、対ユーロでのドル安による原油の割安感、原油在庫の減少予想も反発の材料となったが、英国のEU離脱を受けた世界経済の先行き不透明感は根強く、ドライブシーズンを迎えたにもかかわらず米国内のガソリン在庫は潤沢であることが上値を抑えることとなった。

EIAの週間石油統計は、連休により一日遅れとなるが、原油在庫は減少と予想される一方、ガソリン在庫が高めに推移することを気にする声もある。8月限の終値は、前日比0.83ドル高の1バレル47.43ドル、9月限の終値は、前日比0.85ドル高の1バレル48.14ドルだった。

EIAによると、7月4日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比3.8セント値下がりの1ガロン2.291ドル(62.6円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.3セント値下がりの2.423ドル(66.2円/ℓ)。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油は2週振りの値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、6月26日～7月2日に休止したトッパー能力は、30.4万バレル/日と先週から10.8万バレル/日の減少。(全処理能力は381.7万バレル/日)。

原油処理量は340.1万kl、前週に比べ2.6万kl増加。前年に対しては15.7万klの増加。トッパー稼働率は80.1%と前週に対して0.7ポイントの増加、前年に対しては5.7ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェットのみが減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/4.3%増、ジェット/27.9%減、灯油/16.5%増、軽油/6.6%増、A重油/9.1%増、C重油/2.4%増。今週のC重油の輸入は12.6万kl(前週比10.2万kl増)。軽油の輸出は13.0万kl(前週比4.5万kl減)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリン、灯油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比では灯油、A重油が減少し、その他の油種で増加した。円高により原油コストが下がり、小売価格も約4ヵ月振りに値下がりとなる中で、ガソリンの出荷は105.2万kl(対前週8.8%増)と3週連続で前週比で増加、2週振りに前年比で増加となり、5週振りに100万klを超えた。

ジェット9.0万 kl(対前週26.3%減)、灯油9.4万 kl(対前週40.7%増)、軽油61.3万kl(対前週2.4%減)、A重油18.3万 kl(対前週4.4%減)、C重油37.0万 kl(対前週12.6%増)。

(単位:千KL)

	今週 (6/26 ~ 7/2)	前週 (6/19 ~ 6/25)	前週比	
ガソリン	1,052	966	▲ 86	(9%)
ジェット燃料	90	122	▼ -32	(-26%)
灯油	94	67	▲ 27	(40%)
軽油	613	629	▼ -16	(-3%)
A重油	183	191	▼ -8	(-4%)
C重油	370	328	▲ 42	(13%)
合計	2,402	2,303	▲ 99	(4%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

7月2日時点の在庫はガソリン、ジェットが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては軽油のみが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは169.4万kl、前週差13.9万kl減。前年に対しては0.3万kl多い。

灯油は191.1万kl、前週差8.9万kl増。前年に対しては41.6万kl多い。

軽油は154.3万kl、前週差10.5万kl増。前年に対しては6.4万kl少ない。

A重油は81.7万kl、前週差1.5万kl増。前年に対しては2.4万kl多い。

C重油は203.4万kl、前週差7.2万kl増。前年に対しては2.3万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (7/2)	前週 (6/25)	前週比	
ガソリン	1,694	1,833	▼ -139	(-8%)
ジェット燃料	989	1,015	▼ -26	(-3%)
灯油	1,911	1,822	▲ 89	(5%)
軽油	1,543	1,438	▲ 105	(7%)
A重油	817	802	▲ 15	(2%)
C重油	2,034	1,962	▲ 72	(4%)
合計	8,988	8,872	▲ 116	(1.3%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

6月28日から7月4日までの原油コストは、原油価格は小幅に値下がり、為替レートは円高で、小幅な値下がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン96~97円台、軽油41円台、灯油40円台で横ばいから小幅な値下がり。海上スポット価格は、ガソリン96~97円台、軽油41円台、灯油38~39円台でガソリンを中心に軟調、先物価格はガソリン95~97円台、軽油39~40円台、灯油38~40円台で上値を切り下げた。元売の卸価格は据え置きだった。

EMGマーケティングは7日、9日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、全油種据え置き旨を通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、海上物から値を崩した。週間のガソリン販売量は、5週振りに100万klを超えた。

7月第2週(7月7日~7月13日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(6月28日~7月4日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.6円、灯油は0.4円の値下がり、軽油は横ばいだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが4.4円、灯油は0.6円、軽油は0.7円の値下がり、先物価格は、ガソリンが1.1円、灯油が0.2円、軽油が0.2円の値下がりだった。スポット製品価格は海上物のガソリンを中心に軟調が続いた。

7月第2週の大手元売の卸価格は、ガソリンは概ね1円値下げ、中間留分は据え置きであった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (6/28 ~ 7/4)	前週 (6/21 ~ 6/27)	前週比
スポット価格	レギュラー	43.1	43.7	▼ -0.6
	灯油	40.1	40.5	▼ -0.4
	軽油	41.5	41.5	➡ 0.0

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (6/28 ~ 7/4)	前週 (6/21 ~ 6/27)	前週比
先物価格	レギュラー	42.6	43.7	▼ -1.1
	灯油	39.7	39.9	▼ -0.2
	軽油	40.0	40.2	▼ -0.2

※上記価格は税抜き価格

参考値 (6/28~7/4実績値)		(単位: 円/ℓ)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▼ -0.6	▼ -1.1	▼ -0.8	
灯油	▼ -0.4	▼ -0.2	▼ -0.3	
軽油	➡ 0.0	▼ -0.2	▼ -0.1	
A重油	▼ -0.1			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バーージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

7月4日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円値下がりの123.8円、軽油は0.1円値下がりの103.5円、灯油は横ばいの64.2円だった。ガソリンは17週振りの値下がり、軽油は2週連続の値下がり、灯油は2週連続の横ばいだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは17府県、横ばいは5県、値下がり25都道府県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、岡山県(前週比0.1円安)の119.7円で、秋田県(同0.2円高)が119.8円で続いている。最高値は沖縄県(同0.8円安)の133.9円だった。都道府県別で最も値

上がりしたのは長崎県(同1.7円高)で132.8円、最も値下がりしたのは前週比1.3円安の青森県(121.8円)と群馬県(120.8円)だった。

原油コストは値下がり、卸価格は全社据え置きだったが、17週振りに小売価格は値下がりした。原油価格の小幅な値下がり円高で、原油コストはやや値下がりしており、次週の小売価格は、小幅な値下がりが予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/ℓ)				
		今週 (7/4)	前週 (6/27)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	123.8	124.0	▼ -0.2	08/8/4	185.1
	灯油	64.2	64.2	➡ 0.0	08/8/11	132.1
	軽油	103.5	103.6	▼ -0.1	08/8/4	167.4

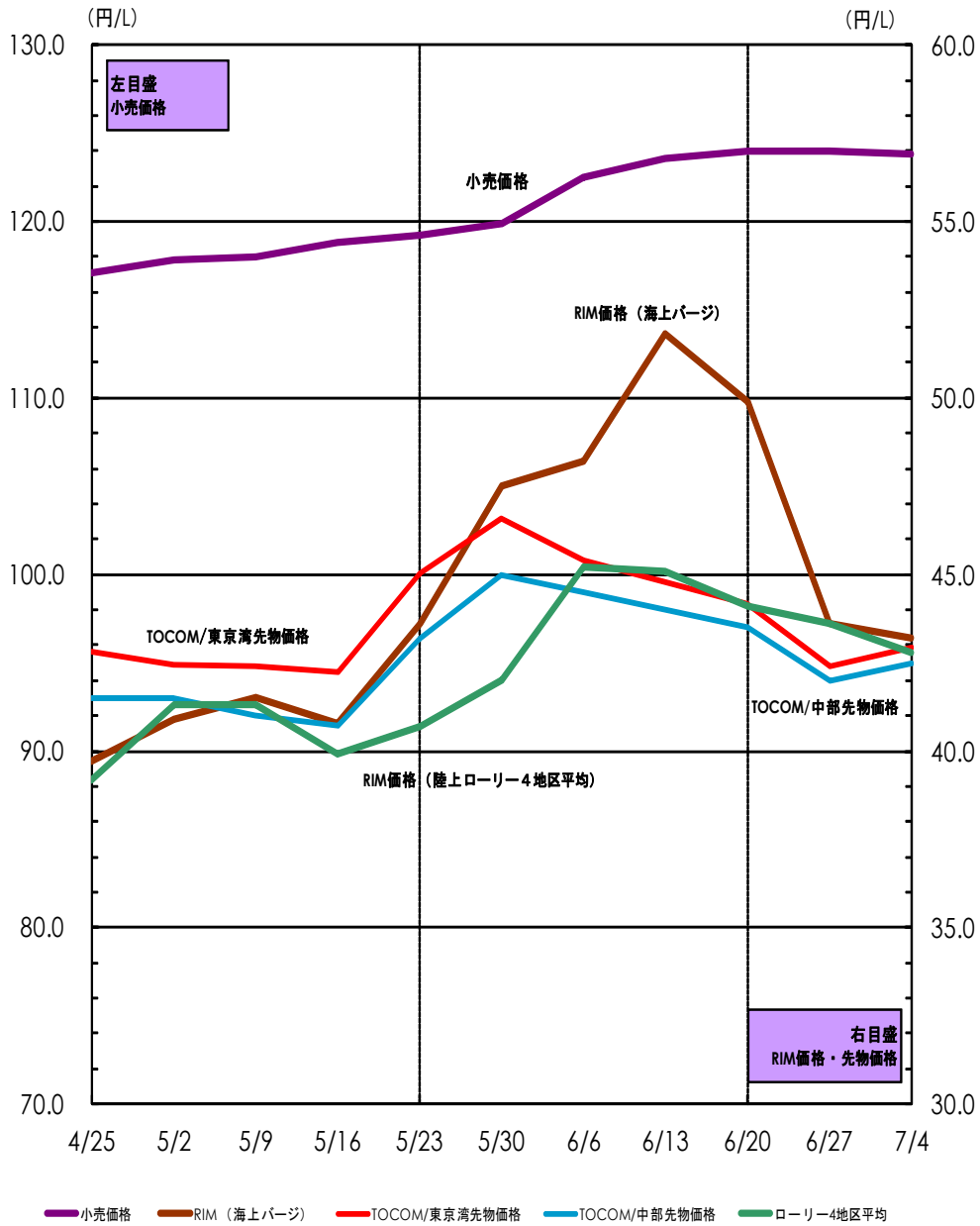
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/4/25 ~ 2016/7/4)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2016第15号)の公表は、7/15(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成27年9月末現在)は、12月16日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。